

心して(覚悟して!?)聴くべし!

田中 泰(クラシックソムリエ)

「4大ピアノ協奏曲公演」と聞いたら、普通は4曲の協奏曲を2日か3日に分けたコンサートの中で演奏することを想像する。ところがサブタイトルには「音楽史に燦然と輝く4大ピアノ協奏曲を一挙上演!」とある。これはいったい何なのだ。

そもそもピアノ協奏曲はどうやって演奏されてきたのだろうか? 『ピアノ協奏曲の誕生(小岩信治著、春秋社刊)』の巻頭に素敵な文章が書かれているので引用したい。『ピアノ協奏曲はオーケストラ演奏会の華である。現代ではたいてい第1部、休憩前の演目として、このジャンルの音楽がプログラミングされる。オーケストラが並ぶ舞台の中央に、この時だけ姿を現す堂々たる黒いコンサート・グランド。そしてこの演目のためだけに舞台上に現れるピアニスト。(中略)ピアニストは、この曲の楽譜をすべて頭に入れて、譜面台が外された楽器に向かう。そして彼の指から生み出される多彩な音楽は、大人数のオーケストラと渡り合い、ピアノとオーケストラによって繰り上げられる音楽のドラマは、演奏会前半のクライマックスとなる』。まさにその通りだ。

だとしたら、横山幸雄が挑む「4大ピアノ協奏曲」はいったいどうなるのか。ピアノは前半どころか、コンサートの最初から最後までステージの中央に鎮座し、ピアニストはコンサートの間中ずっとオーケストラと渡り合う。しかも横山幸雄のことだから、当然楽譜なんか開かず、暗譜で弾くに決まっている。これは、「ショパン全ピアノ独奏曲212曲を18時間かけて暗譜で演奏」という、人間業とは思えないコンサートを成し遂げた横山幸雄ならでは。そして彼が一挙に弾き切ろうとしている4つのピアノ協奏曲がまた凄い。弾くことはおろか、通して聴くだけでも大仕事の重量級プログラムだ。

しかし、冷静に考えてみれば、これほど贅沢な時間が他にあらうか。ピアノ協奏曲の名峰を辿る音楽の宴は、ワインのエキスパートとしても知られる横山幸雄がセレクトした最高級ワインをビンテージごとに味わう時間にも似ているような(かつて横山幸雄が関西で同じプログラムに臨んだ時、会場のロビーでは、「ピフテキを2枚食べたような気分になる演奏会!」と言われていたとか)。だからこそピアノ好きにはたまらない(肉食リスナーにもたまらない!?)。

なにはともあれ、これが大変なコンサートであることは間違いない。心して(覚悟して!?)聴くべし!

横山幸雄(ピアノ)

Yukio Yokoyama, Piano

1990年ショパン国際コンクールにおいて歴代の日本人として最年少で入賞し、文化庁芸術選奨文部大臣新人賞など数多の賞を受賞。

2010年にポーランド政府より、ショパンの作品に対して特に顕著な芸術活動を行った世界で100名の芸術家に贈られる「ショパン・パスポート」が授与される。同年166曲、2011年には212曲のショパンのピアノ独奏曲を1日で演奏し、ギネス世界記録に認定された。2013年からベートーヴェン生誕250周年に向けて「ベートーヴェン・プラス」をスタートさせるなど、意欲的な企画に取り組んでいる。

CDは、文化庁芸術祭レコード部門優秀賞、国際F.リスト賞レコードグランプリ最優秀賞等栄えある賞を受賞。近年では「プレイズ・リスト2013」「プレイズ・シューマン2014」「プレイズ・モーツァルト2015」、シューベルト即興曲集「アンプロンプチュ」、雨だれのプレリュード／横山幸雄、「ファンタジー」をリリース。最新CDは「ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番」。

東京と京都にレストランをオープンし音楽と旬の食をプロデュースするなど、活躍は多岐にわたる。エリザベト音楽大学客員教授、日本パデレフスキ協会会長。

オフィシャル・ホームページ: <http://yokoyamayukio.net/>



©引田匡史

ベン・グラスバーク(指揮) Ben Glassberg, Conductor

ケンブリッジ大学を卒業後、英国ロイヤル・アカデミーでシャーン・エドワーズに指揮を学ぶ。2017年9月、第55回ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝し、同時に聴衆賞、オーケストラ賞も受賞。同年夏、グライントボーン音楽祭「皇帝ティートの慈悲」でロビン・ティッチアッティのアシスタントを務めていたグラスバークは指揮者急病のため、急遽指揮台上がり大成功を収め、史上最年少で同音楽祭の指揮台にあがった指揮者となった。

グライントボーンでは2018年夏に「蝶々夫人」、秋には「椿姫」をアシストおよび指揮。

札幌交響楽団(管弦楽) Sapporo Symphony Orchestra

札幌交響楽団は、1961年発足。北海道唯一のプロ・オーケストラとして、「札幌」の愛称で親しまれる。透明感のあるサウンドとパワフルな表現力は、国内はもとより海外でも評価が高い。歴代指揮者には、名誉創立指揮者の荒谷正雄、ペーター・シュヴァルツ、岩城宏之、秋山和慶、尾高忠明、マックス・ボンマーなどが務めた。現在、首席指揮者のマティアス・バーメルト、名誉音楽監督の尾高忠明、名誉指揮者のラドミル・エリシュカ、友情客演指揮者の広上淳一、指揮者として佐藤俊太郎と垣内悠希を擁する。年間公演数は約120回、さらにアウトリーチ活動にも積極的に取り組んでいる。海外ではヨーロッパ、アメリカ、アジア諸国を訪問し、各国で好評を博した。



横山幸雄が満を持して開示する、垂涎のラフマニノフのピアノ・コンチェルト

ART INFINI

横山幸雄／ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第2番 他

S.ラフマニノフ:

パガニーニの主題による狂詩曲 作品43

ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

第1楽章 モデラート

第2楽章 アダージョ・ソステナート

第3楽章 アレグロ・スケルツァンド

横山幸雄:

オマージュ・ア・ラフマニノフ〜ヴォカリーズ

横山 幸雄(ピアノ)

下野竜也 指揮

新日本フィルハーモニー交響楽団

絶賛発売中

MECO-1049 定価¥3,000+税

DSD

HYBRID

STEREO

24bit/96kHz

ART INFINI

アールアンフィニレーベル 企画・制作:(株)ソニー・ミュージックダイレクト 発売:(株)ミュージックエンターテインメント